

# 子供SNS被害最多101人

## 昨年児童ポルノ「自画撮り」増

県内で昨年、SNSなどの交流サイトを通じて犯罪の被害に遭った18歳未満の子どもは101人と、統計を取り始めた2008年以来最多だったことが県警のまとめでわかった。裸の画像などを送信せられる「自画撮り」被害が増加しており、県警の担当者は、「スマートフォンを使って撮影できることで、気軽に送ってしまい、被害に遭うケースが多い」と指摘している。

罪種別では、淫行や夜間の連れ回しなどの県青少年健全育成条例違反の被害は前年より1人多い50人と微増。裸の画像を送信させるなどした児童ポルノの被害は同19人増の38人で、このうち29人が「自画撮り」に

よる被害だった。児童買春は同5人減の8人だった。県警少年捜査課によると、自画撮りは送った写真を褒められることで露出がエスカレートしてしまうこ

とが多いといい、個人間のやりとりのほか、写真の転売目的の組織的な犯行もあるという。一方、犯罪の被害に遭ったのは、15歳以上が7割を

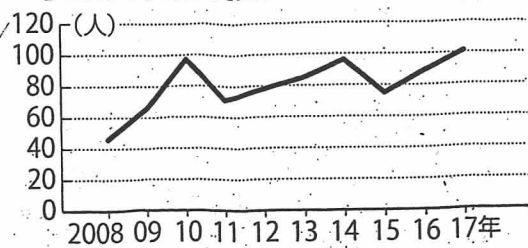
占め、最年少は11歳の小学生の男女2人だった。サイトへのアクセス方法はスマートフォンが86人で8割を超えた。被害に遭ったサイトは、「ツイッター」が最も多い23人(前年比5人増)、チャット型交流サイト「友達作りTalk」が9人(同7人増)、同「ひまわり」が9人(同7人増)、「LINE」が6人(同5人減)だった。県警サ

また、「他人と交流できるアプリ、サイトで知り合った人と会ったことがある」という高校生は17・5%(同2・5増)、中学生は11%(同5・4増)と増加した。一方で、インターネットに名前を公開している高校生は51・1%(同14・6減)、中学生は30・7%(同7・5減)となった。学校の名前を公開している割合も少なくなるなど、自

被害者が相手と会った理由(回答者74人)は「交遊目的」と「優しかった、相談に乗ってくれた」が共に17人(23%)で最も多かった。被害者(回答者84人)のうち、79人が有害サイトの閲覧を制限するフィルタリング機能を利用していなかった。同課は「子どもにフィルタリング機能を使わせるなど、被害に遭わせない環境を大人が作っていかなければいけない」と呼びかけている。

インターネットは「友達作りTalk」が9人(同7人増)、同「ひまわり」が9人(同7人増)、「LINE」が6人(同5人減)だった。県警サ

◆県内で交流サイトを介して被害に遭った子どもの人数の推移



### ネットきっかけ

県警サイバー犯罪対策課が昨年度、県内の中学生に対して行ったアンケート調査で、インターネットで知り合った人と実際に「会っても良い」と答えた高校生は42・8%(前年度比6・4増)となった。中学生は26・1%(同6・6増)で、見知らぬ人に会う抵抗感の薄さが浮き彫りになった。

「会っても良い」42・8% 高校生

アンケートは2015年度から実施。今回は、県内の17中学校と7高校で生徒1万1383人に行われた。

「インターネットで知り合った人と会うことをどう思うか」という問いに「会わない方がよい」と回答した高校生は37・4%(同18・2減)、中学生は48・1%(同26・8減)となった。

前を公開している高校生は51・1%(同14・6減)、中学生は30・7%(同7・5減)となった。学校の名前を公開している割合も少なくなるなど、自

平成30年5月22日

読売新聞 朝刊

